

【第128回生涯教育講座】

多元的なアプローチが必要な主要呼吸器疾患

いそ べ 部 たけし 威 つ ばた 端 ゆ かり 由佳里

キーワード：precision medicine, multimorbidity, respiratory medicine,
Disease management program, Older hospitalized patients,
Multimorbidity

要 旨

呼吸器の主要な疾患としては、慢性閉塞性肺疾患（Chronic obstructive pulmonary disease：COPD）、気管支喘息、間質性肺炎、肺癌、肺炎、呼吸不全などが挙げられる。いずれの疾患についても診療ガイドラインが出版され、日常診療に反映されている。治療の進歩はめざましく、難治性疾患である間質性肺炎に対する抗線維化薬、進行肺癌に対する分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬が臨床導入され、長期生存が可能な症例が増加している。気管支喘息では、吸入ステロイドに加えて、抗体療法や気管支サーモプラスティ等の治療選択肢が加わった。

また、人口の高齢化に伴って、呼吸器疾患の罹患者も高齢化している。一方で医学の進歩に伴い呼吸器疾患が長期にコントロール可能となり、経過中に第二、第三の主要呼吸器疾患を合併する例も認められる。ゲノム医療実用化が始まり、患者個人から得られる遺伝子情報を含む多くの情報から最善の医療を提供し、患者のニーズやライフステージに応じたトータルケアとプレジジョン・メディシンが、癌に限らず慢性疾患の治療や予防に寄与する。本稿では呼吸器の主要疾患に対する治療の進歩を概説するとともに今後の将来展望について述べたい。

は じ め に

主要呼吸器疾患としては、慢性閉塞性肺疾患（Chronic obstructive pulmonary disease:

COPD）、気管支喘息、間質性肺炎、肺炎、肺癌、呼吸不全などが挙げられる。いずれの疾患についても診療ガイドラインが出版され、日常診療に反映されている。各疾患の治療の進歩はめざましく、なかでも肺癌に対する分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬が臨床導入され、難治癌とされてきた肺癌の疾患概念が変わるような長期

Takeshi ISOBE et al.

島根大学内科学講座呼吸器・臨床腫瘍学
連絡先：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1
島根大学内科学講座